



春日市地域活動指導員だより NO.92

平成24年12月10日

春日市教育委員会 社会教育課

TEL575-4121 fax593-7380



春日市初の通学合宿



奴国の丘 通学合宿



参加した10人の子どもたち



登校前の様子



岡本公民館

今回は、地域・学生ボランティアの支援の下「通学合宿」を行った岡本地区の取り組みを紹介します。

「通学合宿」とは

通学合宿は、4泊5日以上、小学生が親元を離れ、公共の施設で集団生活をしながら生活体験や直接体験をし、通常どおり学校へ通う事業です。

通学合宿の目的は

子ども達の基本的な生活習慣や規範意識・責任感等を育てること、及び自主性や自立性を養い、学習意欲やコミュニケーション能力の育成を図ることです。

アンビシャス広場や子ども会など、社会教育に関する情報は、春日市ホームページ内「教育・文化」⇒「学ぶ・楽しむ」からご覧いただけます。

奴国の丘「通学合宿」

春日市で最初の通学合宿が、10月14日（日）から20日（土）まで、奴国の丘に隣接する岡本公民館で実施されました。岡本・須玖北・桜ヶ丘地区に住む児童4～6年生の希望者10名が、地域や学生のボランティアの見守る中、6泊7日にわたる集団生活を行いました。

体験活動が“生きる力”を育てる

通学合宿では、子ども達に「**やったことのないことは、出来ないのが当たり前**」と伝え、まずは子ども達にさせてみることから始めます。そのために、通学合宿の間、スタッフは自分たちが手を出したいのを我慢して、子ども達に全てを任せます。その代わりに、失敗しても一生懸命に取り組んだことを誉め、逆に迷惑がかかるような行動をしたときにはきちんと叱るように心掛けました。

一日の流れ

朝6時に起床。健康観察の後、ラジオ体操をして、2班に別れて食事の支度と掃除をします。食事の後は、後片づけをし、身支度をして元気いっぱいに登校です。



起床・健康観察



ラジオ体操



食事の支度



朝食は、ご飯とみそ汁を！



朝食後の後片づけ



元気に登校

学校から帰った子ども達は、2班に別れて掃除・洗濯や夕食の準備を行います。夕食後は、後片づけをし、お風呂です。初日は、近所のお宅のお風呂で「もらい湯」をしました。2日目以降は、自衛隊のご協力で入浴施設を使用させていただくことになり、広い浴槽で誰もが体験できない入浴を体験することが出来ました。



お帰いなさい



掃除・洗濯



夕食の準備



いただきます



夕食の後片づけ

**近所の
お家で**



“もらい湯”

帰館後、洗濯物を干し、学生ボランティアの見守りの中、宿題をし、点検をしてもらうことで学習意欲が高まっています。



洗濯干し



宿題タイム

宿題を点検してもらいます



班会議、時間割確認、健康チェック、水筒出し、歯磨き、就寝準備等の活動が終わると、夜10:00に消灯です。



班会議



それぞれの部屋で就寝準備



主な体験活動

茶道・味噌づくり体験

合宿中、子ども達は、茶道を体験しました。日本の伝統文化を体験することで作法だけでなく、互いに相手を敬い、思いやり、感謝をする心などが育ったようです。



毎朝食べるみそ汁の味噌が、何から出来ているのか、どのようにして作るのかを学ぶために、岡本自治会の女性部の方の指導のもと、みそづくりを体験しました。味噌が出来る3ヶ月後の再会が楽しみです。



子どもを中心に育つ“地域の輪”

通学合宿では、地域の方々の協力が不可欠です。合宿成功のために、準備段階から何度も話し合いを行い、調理・学習・登下校・宿泊等の指導について、スタッフの理解と協力を得ます。合宿が始まると、子どもを中心に人々のつながりが深まり、協力体制も整備され、世代間交流が進み、地域は力を増していきます。

こうしてつながりが増した地域では、大人から子どもへの声かけが自然と行われ、子ども達も、信頼できる地域の方に見守られていると実感し、感謝の心が育ちます。

育まれる感謝の気持ち

一週間の合宿体験を終えた子ども達の感想文には「毎日料理を作ってくれるお母さんが大変だということが分かった。これからは、お母さんのお手伝いなどをしたいです」「これからは自分で出来ることは自分でします」と、親への尊敬と感謝の気持ち、これからの決意等が読みとれました。また、通学合宿を支えてくれたスタッフに対しても「色々な準備をしてくれてありがとうございました」と感謝の言葉が続きます。

親からは、「寂しかった」「いつもそばにいる子どもが、一週間いないことで子ども達の存在の大きさを改めて認識できました」という言葉がありました。「また、合宿に来たいと思いました」という感想に、スタッフは、「何よりの言葉です。また来年も頑張ります」と、感謝の気持ちがあふれていました。

奴国の丘「通学合宿」を振り返って

奴国の丘「通学合宿」を振り返って

奴国の丘通学合宿実行委員会
委員長 川崎 英彦

春日市で初めての通学合宿が終了しました。

桜ヶ丘、須玖北、岡本に住む10名の子ども達が岡本公民館で寝食を共にし、共同生活をしながら学校に通いました。

初日は岡本地区のスポーツ大会に参加して仲間づくりを行い、緊張気味だった子ども達が、お昼には仲良くなっていました。2日目の茶道体験では1時間の正座に耐えながら、日本人が大切にしている礼儀作法を学びました。毎日の入浴は陸上自衛隊の施設をお借りして、公共の場でのマナーやお世話をして頂く方への挨拶など、大切なことに気づいたようです。

基本的な生活習慣を身に付け、忍耐力・自主性・責任感・コミュニケーション能力などの向上を目的として進めました。食事の時の姿勢やお箸の使い方、目上の人との話し方などは、今後の課題だと感じています。

一週間の合宿で大きな成果をあげることは出来なくても、子ども達が自分の可能性に気づくきっかけになれば、この事業は大成功です。また、この経験が近い将来の社会貢献や地域づくりに参加する意識として育つことを願っています。

今回は女性部、老人会、学生ボランティア、学校関係者、その他多くの方々のご協力で実施することが出来ました。子どもの育成事業でありながら、関わった方々にも良い経験になり、地域づくりにもつながっています。

我々、実施する側が初めての体験で反省すべき点が多くありますが、今後このような事業が春日市で根付いていくことを心より願っております。

今後の願い

奴国の丘「通学合宿」学生ボランティア
塾長 岡野 拓史

一週間という短い合宿期間ではありましたが、子ども達は多くの“初めて”を体験できたのではないのでしょうか。包丁を握ることも、洗濯機を回すことも初めてだった子ども達。それでも毎日経験することで、少しずつ成長し、1日の生活の流れを子ども達なりに掴んでいきました。合宿後の感想の中には「友達と協力し合うことができた」

「お母さんの手伝いをしたい」といった言葉や、合宿最終日に一週間分の重たい荷物を親に頼らず一生懸命持ち帰る姿もみられ、人を思いやる気持ち一段と養われたように思います。

今後もこの活動が子ども達の未来と、地域のつながりを強めるために一役買ってくれることを大いに期待しています。



塾長と元気に登校

春日北小学校校長 馬場 肇子

岡本自治会が、岡本だけでなく、桜ヶ丘、須玖北自治会の子ども達にも、参加を広げてくださり、ボランティア精神の本当の姿をみせていただきました。

子どもたちは、異年齢集団で活動すること、大学生ボランティアや地域の方とのふれあいに楽しくて仕方がない様子でした。学校でも、そのエネルギーが生かされ、生き生きと学習していました。体調が少しくらい悪くても、自宅に帰りたくないという自己治癒力を最大限に活用し、参加する子どもの姿も見られました。それは、地域の方の温かい見守りがあってこそ、できたことだと感謝しています。

学校長として、参加した子どもたちが、将来、地域のために、自分にできることを、できるときにやってくれることを大いに期待しています。
ありがとうございました。

参加児童保護者 牛島 いづみ

初めての経験で不安な中、地域の皆様の温かい愛情をいただき、「ほめられる喜び」「大切にされているという充実感」が子どもの身体に染み入って、自分も他人も共に大事だと思う気持ちが育っていったのではないのでしょうか。

今回の合宿で覚えた事は、1つでも良いと思います。それは、畳の歩き方かもしれないし、包丁の置き方かもしれない、靴をそろえて脱ぐことかもしれないし、物を大事に扱うことかもしれません。これから生きていく時間の中で、ふっと教わった事を思い出す日があるかもしれません。

小4の息子は、感想で「人の役に立ちたい」と言っていました。貴重な経験をさせて頂き、皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。

情報コーナー



平成24年度

「地域で子どもを育てる取り組み実践発表会」のお知らせ

日 時： 平成25年2月17日（日）14：00～16：00

場 所： ふれあい文化センター 旧館2階大会議室

オープニングアトラクション

： 春日西小児童による合唱

事例発表： 春日小学校アンビシャス広場
春日東中学校アンビシャス広場
奴国の丘「通学合宿」

